

# 『『答えのない課題の解決に挑む学び』を支える教育システム・デザイン』特集号発刊にあたって

山崎 治  
(千葉工業大学)

## 1. はじめに

本特集号では、答えのない課題解決に挑む学びを促進し、支援するため教育システム・デザインの提案・実践や、それらの取り組みを加速するための教育DXに寄与する先行的な取り組みを共有している。現代は、先行きが見通せない予測困難な時代、また持続可能な未来のために劇的な社会変革が求められる時代といわれる。そのような時代においては、従来からの価値のみに縛られず、新たな課題の発見・解決を通じた『価値創造』に対応できる人材の重要性が増してきている。令和3(2021)年1月26日の中央教育審議会の答申では「令和の日本型学校教育」というキーワードが掲げられ、急激な変化が求められる時代において育むべき資質・能力と、従来の日本型学校教育における課題とそれら乗り越えていくための指針が示された。また、令和4(2022)年1月18日の日本経済団体連合会による「新しい時代に対応した大学教育改革の推進」という提言では、従来の日本型雇用システムから「新しい時代に対応する働き方・雇用制度」への対応が必要とされた。これらの提言は、価値観が多様化し、複雑さを増す現代という時代において、一人ひとりが自身および他者の良さや可能性を認めた協働を通じて、「答えが定まらない」社会の課題へ取り組んでいく必要性を示している。このような時代や社会の要請に対して、『『答えのない課題解決に挑む』人材をどのように育成していくのか』という課題はわれわれにとって喫緊の課題の一つといえるだろう。

他方、「答えのない課題解決に挑む学び」に対する需要は、時代の要請にかかわらず不変であり、また現代社会やグローバルな視点からも普遍的なテーマであるともいえる。その意味ではテーマ自体は「とにかく新

しい」ものではない。しかし、この「古くて新しい」テーマを掲げながら「今」だからこそできるアプローチを広く共有することで、世代をつなぐような議論ができることを期待したい。

## 2. 論文の投稿数と判定結果

本特集号への論文投稿については、2023年6月1日原稿締切から6月16日に延長を行い（延長後、以降の投稿については6月8日までに事前エントリを必須とした）、最終的に13編の投稿があった。その内訳は一般論文が6編、実践論文が5編、ショートノートが1編、実践速報が1編であった。

査読においては、採録可否の判定とともに、特集号の内容と整合的であるかどうかについても審査を行った。その結果、合計4編を採録とした。採録された論文のカテゴリは、一般論文3編と実践論文1編であった。最終的な採録率は31%となり、2022年度(41%)と2021年度(43%)、2020年度(36%)と比較すると低い採録率となった。

## 3. 全国大会企画セッション

第47回教育システム情報学会全国大会(2022年8月24日(水)~26日(金)新潟工科大学/オンライン(ハイブリッド)開催)において、学会誌編集委員会による企画セッションを行った。本特集と同じテーマで研究発表を募集したところ、6件の応募があり、セッションの最後には総論協議の機会も設けられた。この企画セッションを皮切りに、特集論文研究会の実施や特集号に向けた解説論文の事前掲載を行い、本特集号の刊行にいたっている。